

(15) 広内川

広内川からの取水は、雑用水（防火用）の利用がなされているが、これまでに渇水被害を生じた事例はない。

広内川は、現在のところ河川空間の利用はない。

河川環境として、ペンケオタソイ川合流点より上流へ0.8kmの区間が市街地となっており、中流域の後背地は農地として利用され、上流域には森林が広がっている。河床勾配は1/60～1/110程度であり、河床は砂礫で構成されている。対象河川周辺における動植物として、魚類では、瀬や淵などに生息するサクラマス(ヤマメ)や石礫底の瀬などを利用するハナカジカなどが生息している。植物では、ヤナギ類の河畔林が形成され、林床にはクサヨシなどが生息し、水際はノダイオウなどが生育している。鳥類では、ヤマシギ、オオタカ、クマガラが生息している。哺乳類では、エゾクロテンが生息している。両生類では、エゾサンショウウオが確認されている。また、優先整備区間においては、魚類では、瀬や淵などに生息するサクラマス(ヤマメ)や石礫底の瀬などを利用するハナカジカなどが生息している。鳥類では、休息場として利用する河畔林周辺でオオワシなどが確認されている。哺乳類では、キタキツネが確認されている。

水質については、広内川は公共用水域における「生活環境の保全に関する環境基準」に基づく類型指定がされていないため、定期的な水質調査はされていないが、令和2年度に西1線橋上流及び西2号橋付近において水質調査が行われており、BOD（生物化学的酸素要求量）測定値は、西1線橋上流で0.5mg/ℓ、西2号橋付近で0.5mg/ℓで、AA類型（基準値1mg/ℓ以下）程度の水質である。

このような現状を踏まえ、地域住民や関係機関との連携を図りながら、河川環境を保全していく必要がある。



▲西2線橋付近上空より上流（中流部）



▲西1線橋付近上空より上流（下流部）

(16) 中新得川

中新得川からの取水は、雑用水（防火用）の利用がなされているが、これまでに渇水被害を生じた事例はない。

また、現在のところ河川空間の利用はない。

河川環境として、佐幌川合流点より上流へ2.0kmの区間が市街地となっており、中流域の後背地は農地として利用され、上流域には森林が広がっている。河床勾配は1/60～1/100程度であり、河床は砂礫で構成されている。対象河川周辺における動植物として、魚類では、瀬や淵などに生息するサクラマス(ヤマメ)や石礫底の瀬などを利用するハナカジカなどが生息している。植物では、ヤナギ類の河畔林が形成され、林床にはクサヨシなどが生息し、水際はノダイオウなどが生育している。鳥類では、ヤマシギ、オオタカ、クマガラが生息している。哺乳類では、エゾクロテンが生息している。両生類では、エゾサンショウウオが確認されている。また、優先整備区間においては、魚類では、瀬や淵などに生息するサクラマス(ヤマメ)や石礫底の瀬などを利用するハナカジカなどが生息している。鳥類では、休息場として利用する河畔林周辺でオオワシなどが確認されている。

水質については、中新得川は公共用水域における「生活環境の保全に関する環境基準」に基づく類型指定がされていないため、定期的な水質調査はされていないが、令和2年度に道道夕張新得線付近、新得中学校付近、町道西3線付近、道東自動車道下流において水質調査が行われており、BOD（生物化学的酸素要求量）測定値は、道道夕張新得線付近で0.8mg/ℓ、新得中学校付近で0.5mg/ℓ未満、町道西3線付近で0.5mg/ℓ、道東自動車道下流で0.5mg/ℓで、AA類型（基準値1mg/ℓ以下）程度の水質である。

このような現状を踏まえ、地域住民や関係機関との連携を図りながら、河川環境を保全していく必要がある。



▲2号橋上空より上流（中流部）



▲国道橋上空より上流（下流部）